



佐渡を世界遺産に

# 金を中心とする 佐渡鉱山の遺産群

The Sado Complex of Heritage Mines, Primarily Gold Mines

## 蘇る鉱山都市

## 黄金の佐渡国

16世紀後半頃から、西洋諸国のアジア進出を背景に海外貿易が盛んになってきました。当時、取引での決済には主に金銀が使われました。戦国時代末期から各地で金銀山の開発が盛んになり、17世紀初頭には、日本は全世界の産出銀の三分の一を占めるまでになりました。マルコポーロの東方見聞録で日本を「黄金の国 ZIPANGU (ジパング)」と記しているように、黄金に輝く国に見えたのでしょう。その中心を担ったのが佐渡であり、徳川幕府は相川に奉行を置き、佐渡を直轄地として支配しました。その後、明治になって相川金銀山は官営を経て皇室の所有となり、さらに三菱が経営を引き継ぎ、平成元年にその幕を閉じました。



道遊の割戸 (国指定史跡)

慶長6(1601)年、相川金銀山発見の端緒となった大鉱脈「道遊脈」の採掘跡。江戸時代には主に地表部の採掘が行われたが、明治以降も下部で大規模な開発が行われた。



50メートルシクナー (国指定史跡)

直径50mの鉄筋コンクリート製で昭和13(1938)年頃からの金の増産体制時に建設された。泥状の鉱物を鉱物と水に分離する施設。



大立竪坑 (国指定史跡・国重要文化財)

明治10(1877)年にドイツ人技師の指導により完成した日本初の西洋式竪坑。この鉄製のやぐらは、昭和13(1938)年頃からの金の増産体制時に建設された。



北沢火力発電所 (佐渡金山近代写真展示館) (国指定史跡)

明治41(1908)年に完成した石炭火力発電所。500kwの蒸気タービン1基が設置され製鉱場が蒸気機関から電動機に代わった。昭和初期の大増産期には1800kwに増強された。



北沢浮遊選鉱場 (国指定史跡)

シクナーと同時期に、隣接して建設された。最大で月間7万トンの鉱石を処理し、当時「東洋一」と言われた。



道遊坑 (国指定史跡・国重要文化財)

明治32(1899)年、「道遊脈」の開発を目的に開削された主要運搬坑道。今でもトロッコのレールが残っている。



### [金を中心とする佐渡鉱山の遺産群] 佐渡を世界文化遺産に

黄金の島の歴史を未来へ繋ぐため「佐渡市世界遺産推進基金」の寄付金を募集しています。

◆お問い合わせ、お申込み  
新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室 TEL:025-280-5726  
佐渡市世界遺産推進課 TEL:0259-63-5136